

令和 7 年度 神戸市市民福祉調査委員会
計画策定・検証会議ワーキンググループ（第 1 回） 議事要旨

日時 令和 7 年 4 月 30 日（水）午後 2 時～午後 3 時 45 分

場所 神戸市役所 1 号館 24 階 1241 会議室・オンライン

- 議題 1. 市民福祉に関する行動・意識調査 実施結果
2. 次期市民福祉総合計画策定の進め方
 3. 次期市民福祉総合計画の方向性

【主な意見】

議題 1. 市民福祉に関する行動・意識調査 実施結果

- ・自由意見に、神戸市の取り組みを知る機会になったという意見があった。計画についても、知ってもらうための手法を色々と考えていく必要がある。
- ・例えば SDGs のような大きな意識はあっても、それが自分の住む地域の中でどういうことなのか、結びつけるのが難しい。結びつく方法を考えていく必要があると思う。
- ・社会に貢献したいという思いが、実際の活動に繋がらない点については、従来の形にこだわらず、色々なことに参加するという土壌を作っていくことが大切。
- ・孤独感を感じている人たちについては、やはり何らかの形でつながりを作る必要がある。家族や友人をきっかけに、サービスにつなげられるとよい。
- ・神戸で暮らしてよかったところに、地域交流や、働きやすい・子育てしやすい、と回答される方の数を、今後は伸ばしていきたい。
- ・普段の生活のちょっとした困りごとを、地域で支えられたらいいと思う。ちょっと子供を見てほしいとか、ちょっと電球を交換してほしいとか。

議題 2. 次期市民福祉総合計画策定の進め方

- ・いろんな人たちとワークショップをやるというのは非常に大事なことだが、福祉という分野においては、マイノリティの方の意見を見過ごさないように気を付けるべき。そのうえで、限られた財源の中で何を進めるか、皆で議論していかなければならない。
- ・計画に市民が入っていく、というのは本当に必要なこと。特に市民福祉計画は、市民参加で作っていく計画であるので。ただ、声があげにくい人たちのことも意識しないといけない。一部の意見だけにならないように、失ってはいけない部分は押し出す必要がある。

議題 3. 次期市民福祉総合計画の方向性

- ・行政が小さな地域を基準にして、活動に参加して福祉を作ろう、と打ち出している一方で、住民の地域の認識は広域化していると感じる。認識がずれないようにするのが重要ではないか。
- ・アプリの活用など、5年前の計画策定の時にはあまり考えられなかった事例も出てきている。そういう変化を整理しておく必要がある。
- ・「制度のはざまを減らして横のつながりをつくる」という部分と、「市民参加活動を活性化していく」という部分の両方を作っていく必要がある。
- ・計画のコアになるところを決めて、アップデートしていくのが大切ではないか。
- ・何をやればいいのか分からない、という人の参考になる計画になればと思う。個人に限らず企業でも、一步を踏み出すきっかけになるような。
- ・福祉の視点を持った地域づくり、目指す地域の姿、ということを具体的に発信していくことが必要ではないか。
- ・多様な属性の人たちがいる、ということを福祉的な観点からも表せたらいいと思う。
- ・市民参加と聞くと、ハードルが高いと思ってしまう方も多い。支援する側とされる側ではなく、少しの人間関係をつくるのが、本来の地域福祉で、基本構想にもある「あたたかみのあるまち」ではないか。「こういうことでも、自分がまちに貢献できるんだ」と思ってもらえるようなエピソードがあればいいかもしれない。
- ・一步目のハードルを越えられると、二歩目、三歩目にいけると思う。「うまくいかなかったらどうしようと思ったけど、意外と大丈夫だった」とか、そういう活動や経験のエピソードも拾えるといいと思う。